



ハイライトよねやま 173

2014年8月12日発行
公益財団法人ロータリー米山記念奨学会

寄付金速報 — 2014-15 年度も好調スタート —

2014-15 年度がスタートして約 1 カ月が経ちました。7 月の寄付額は約 2 億 1,200 万円で、前年度と比べて 3.3% 増、約 670 万円の増加となりました。普通寄付金が 1.7% 増、特別寄付金が 7.6% 増と合計金額は 2009 年度以降の 6 年間で最高額を達成し、昨年と同様に 2 億円の大台を突破することができました。好調な滑り出しに寄付者の皆様に厚く御礼申し上げます。日本のロータリーが世界に誇る米山奨学事業の継続と発展のため、今後ともご支援ご協力賜りますよう、よろしく願いいたします。

来春採用の奨学生募集始まる

2015 年 4 月採用の新規奨学生募集が始まりました。各地区の米山奨学委員会からの報告により決定した指定校は全国で 533 校（前年度 531 校）、指定校からの被推薦者数は 1,644 人（前年度 1,543 人）で、この中から新規奨学生約 500 人が選ばれます。

地区奨励奨学金（大学・大学院以外の教育機関在籍者が対象）を導入した地区は、過去最多の 13 地区となり、地区奨励奨学金の指定校に選ばれた 20 校（右表）のうち 8 校が初指定となりました。

また、指定校への要望として、地区独自の推薦基準を提示したのは 34 地区中 31 地区でした。最も多かった要望は、被推薦者の国籍が偏らないよう配慮して欲しいというもので、そのほかに、日本語運用能力や応募者の学年、コミュニケーション能力の高さ、などが挙げられました。募集要項・申込書は例年より早く、8 月 5 日に全指定校へメールで案内しました。

2500	旭川工業高専、釧路工業高専
2530	郡山情報ビジネス公務員専門学校
2540	秋田工業高専
2550	アジア学院
2560	長岡工業高専
2580	沖縄工業高専
2640	和歌山工業高専
2650	舞鶴工業高専
2660	大阪コミュニケーションアート専門学校、 大阪ハイテクノロジー専門学校、 大阪日本語教育センター
2670	高知工業高専、阿南工業高専、 徳島工業短大
2680	(公財)PHD 協会、明石工業高専
2690	津山工業高専
2710	広島 YMCA 専門学校、 福山 YMCA 国際ビジネス専門学校

※2015 学年度採用の指定校や募集要項などの書類は当会ホームページにて公開しています。

【訃報】 名誉理事長 島津久厚氏 逝去



当会名誉理事長（前理事長）の島津久厚氏が、8 月 2 日にご逝去されました。享年 96（満 95 歳）でした。

島津氏は、都城ロータリークラブ（第 2730 地区）の初代会長で、1965-66 年度の国際ロータリー第 370 地区（九州）ガバナーを務められました。国際ロータリーの要職を歴任されるとともに、当会が財団法人化されたばかりの頃から、九州における米山記念奨学事業の拡大・推進を率先し、大きな役割を果たされました。

1987 年から 2007 年まで 20 年にわたり、当会理事をお務めいただきました。1991 年から 9 年間は副理事長、2001 年 8 月から 6 年間は第 4 代理事長として、当会事業の発展のために多大なご尽力をいただきました。また、退任後も引き続き、名誉理事長として温かく見守ってくださいました。ここに謹んで哀悼の意を表し、氏のご冥福を心よりお祈りいたします。

台湾学友会による日本人対象奨学金 第6期生が決定

台湾米山学友会（正式名称：（社）中華民國扶輪米山会）が恩返しの気持ちから始めた「日本人若手研究者奨学金」が6年目を迎えました。第6期生の募集には9人の応募があり、台湾米山学友会理事会による厳正な選考の結果、以下の合格者2人が決定しました。合格者には今年9月から1年間、台湾学友会から毎月25,000台湾ドル（約85,000円）が支給されるほか、学友会メンバーがカウンセラーとなって、台湾での留学生生活を物心両面で支えます。



三浦 崇志さん(23)

現在、国立高雄大学応用経済学部にて在籍しており、9月より国立政治大学大学院修士課程に進学予定。ベンチャー企業の投資変化など、台湾・中国・日本の関係を経済観点から考察したいとしている。



関口 大樹さん(25)

9月より国立台湾師範大学大学院修士課程へ進学予定。激動の時代を歩んだ台湾の日本語世代の歴史を記録し継承することを研究テーマに掲げ、さまざまな世代との交流・出会いに意欲を見せている。

マレーシア・ベトナムで学友の集い

当会職員の訪問を機に、マレーシア、ベトナムでそれぞれ、母国に帰国した米山学友が集まり、新たなネットワークづくりの第一歩が記されました。

マレーシアには今年5月、岩邊事務局長と坂下事務局アドバイザーが訪問。首都クアラルンプールでは5人、ペナンでは9人の学友が集まりました。各会合では、学友会設立に向けた課題が話し合われ、今後も両拠点間で連携を図り、早期実現を目指して、協議を続けていくことを決めました。

ベトナムには6月に、岩邊事務局長、坂下事務局アドバイザー、武本事務局員の3人が訪問し、ハノイとホーチミンで学友との集いが開かれました。首都ハノイでは8人の学友が集まり、参加者の一人、フィン・ムイさんが学長を務めるタンロン技術学院の日本語授業の見学機会も設けられました。また、ホーチミンでは19人の学友が集まり、にぎやかな交流会となりました。国情からベトナムでは学友会の設立が難しい面もありますが、これを機にハノイ・ホーチミンそれぞれで定期的

に米山学友が集まろうと、参加者の思いが一つになり、学友の掘り起こしもできた有意義な訪問となりました。



(↑上から)
【マレーシア】
・クアラルンプール
・ペナン

(←左から)
【ベトナム】
・ハノイ
・ホーチミン